

資料A 2025年度ライフセービング事業の高度化

助成事業の概要と評価



1. 事業概要

【最終目的】

子どもたちが積極的に海に関わり、多くの方がより安心して楽しめる海岸環境を次世代にむけて整えるため、自治体や公的救助機関、研究機関と連携した①海水浴場リスク評価や②AIとIoTにより離岸流発生や要救助者を自動検知・通知する「海辺のみまもりシステム」の導入、③ドローンパトロールの運用、④消防へのIRB救助技術の提供などを通じて、ライフセーバーと各機関が連携した安全性の高い海水浴場（海岸）を全国に増やし、海辺に関わるすべての人が支え合あう事故ゼロの海辺空間の創出を目指す。

【中長期の目標】

自治体や公的救助機関との連携を強化し、監視救助、先端技術、安全教育等の持てる知見を全て投入した海辺の事故がおきにくい、子どもや大人が安心して遊べる海岸づくりを先駆的な取り組みのモデルケースとして、重点地域の海水浴場・海岸（千葉、神奈川、静岡、福井、沖縄）を中心に高度化を進め、総合的な海辺の事故防止、安全性の高い海水浴場の創出を実現し、全国の海岸へ展開する。

高度化の各段階 [海辺の事故防止と安全性の高い海岸創出にむけて]

Stage 1 ①リスク評価の実施、②e-logの運用・分析、③公的救助機関IRB救助技術提供 [連携強化、災害対応]、④ICT教育事業の展開

Stage 2 ⑤海辺のみまもりシステムと⑥Water Safetyアプリによる離岸流事故防止の実現

Stage 3 海辺のみまもりシステムの機能強化による総合的な事故防止の実現
⑦風アラート、⑧津波防災、⑨Water Safety eye、⑩助けてサイン、⑪溺水者検知、⑫公的救助機関連携 等

Stage 4 先端技術を活用した人命救助の実現
⑬ドローンによるパトロール、⑭水上ドローンによるレスキュー

Stage 5 環境構築；海辺に関わるすべての人が支え合あう事故ゼロの海辺空間の創出。ライフガードとしての活動の実現。

1. 事業概要

【1. 1年後の到達目標の達成状況】

Table 1 ライフセービング事業の高度化の到達目標と実績

項目	到達目標	実績	
1. 自治体と公的救助機関との連携によるライフセービング活動の高度化	海水浴場のリスク評価の実施	全国5ヶ所の海水浴場を対象に自治体と連携したリスク評価の実施 [Stage1] 新規JLA認定海水浴場5ヶ所、更新8ヶ所でリスク評価を実施。 【新規】5ヶ所；三宅島大久保浜（東京都三宅村）、新島前浜第四（東京都新島市）、式根島中の浦（東京都新島市）、土肥（静岡県伊豆市）、小土肥（静岡県伊豆市） 【更新】8ヶ所；小田の浜海水浴場（宮城県気仙沼市）、湘南ベルマーレひらつかビーチパーク海水浴場（神奈川県平塚市）、御宿中央海水浴場（千葉県御宿町）、式根島泊海水浴場（東京都新島村）、新島黒根海水浴場（東京都新島村）、静波海水浴場（静岡県牧之原市）、相良サンビーチ海水浴場（静岡県牧之原市）、湯河原海水浴場（神奈川県湯河原町）	
	海辺のみまもりシステムの運用 [新規・継続]	重点地域の海岸1ヶ所に新規導入 [Stage2]	重点地域の沖縄県宮古島市渡口の浜でシステムの新規開発・導入。
		既存システムの機能検証（事故防止効果）	システム導入後、すべての海水浴場・海岸（6ヶ所）で離岸流に起因する事故数が大きく減少、もしくは事故ゼロを実現。アンケート調査結果もふまえてシステムの有用性を確認。
		総合的な事故防止のための機能強化 [Stage 3]	AR（拡張現実）を用いてスマートフォンで離岸流エリアを確認可能な技術を開発。
	ドローンパトロール	ドローン・システム連携の運用（2ヶ所） [Stage4]	若狭和田海水浴場にて、システム-ドローン連動の本運用を実施し、有用性を確認。沖縄県渡口の浜にて、システム-ドローン連動のためのドローン試験飛行を実施。
		ドローンを活用したパトロールの普及展開（3ヶ所）	7ヶ所でドローンパトロールを実施。 宮城県小田の浜、福井県若狭和田、神奈川県葉山、神奈川県由比ガ浜・中央材木座、神奈川県湘南広域、東京都三宅島、沖縄県本島 ドローン4機配備 気仙沼ライフセービングクラブ、葉山ライフセービングクラブ、鎌倉ライフガード、沖縄県ライフセービング協会
	消防へのIRB救助技術提供	重点地域を含む全国8ヶ所で実施	重点地域を含む6機関で実施。 千葉県長正郡市広域市町村圏事務組合消防本部、新潟県警機動隊、神奈川県横須賀市消防局、埼玉県深谷市消防本部、夷隅郡市広域市町村圏事務組合消防本部、東京都稲城市消防本部
e-log（電子ログ）運用	LSが活動するすべての海水浴場での運用、分析	ライフセーバーが活動する95%の水浴場（194/204）で運用。 LS活動海岸での救助データを7、8月に2週間毎、9月10日に速報値を公表し注意喚起実施。	
情報発信	ホームページや国内・国際会議等での情報発信	高度化事業の各アクションについてJLAホームページ、SNS等で発信。	
2. 監視救助活動にかかる器材配備	ドローン3機、レスキューボード40本、ボードラック30本、レスキューチューブ150本、AED10機、フラッグ15セットを全国のLSクラブに配備	全国各地の48団体（地域クラブ、都道府県協会）に器材配備。 レスキューボード42本、ボードラック30本、レスキューチューブ140本、AED10機、フラッグ6セットを札幌国際大学水泳部 ライフセービングチームなど新しいライフセービングクラブを含む全国48クラブに配備。	

1. 事業概要

【2. 事業成果の測定】

Table 2 2025年の事業成果 [2026年3月]

項目	事業成果の測定	事業成果
1. 自治体と公的救助機関との連携によるライフセービング活動の高度化	①海辺のみまもりシステムによる離岸流検知率 80%以上 [機能検証]	沖縄県宮古島渡口の浜海岸において、海辺のみまもりシステムの開発、2025年3月運用開始。 システムによる離岸流検知の正しさ；Accuracy [精度] 79.7 %，Precision [適合率] 67.9 %，Recall [再現率] 100 %，F-Measure 0.81. Recallが100%であることから、離岸流発生を見逃さないシステムと評価。
	②海辺のみまもりシステムによる離岸流・風事故の低減効果 救助件数50%以下 [高度化事業実施前との比較]	海辺のみまもりシステムが運用されている海水浴場では、ライフセーバーによる安全管理とシステムによる離岸流と要救助者の検知・通知により、離岸流事故（離岸流に起因するレスキュー）が大きく減少、もしくは離岸流事故ゼロを実現。 <ul style="list-style-type: none"> 鎌倉由比ガ浜；2015～2019年（高度化事業実施前かつCovid-19影響前）の離岸流事故の平均215件に対して、2025年の離岸流が要因の救助は66件、離岸流事故が32%に減少（利用者数考慮）。 鎌倉中央・材木座；2015～2019年の離岸流事故の平均6件（最大20件）に対して、2025年は事故ゼロ。 吉佐美大浜；2015～2019年の離岸流事故の平均13件（最大20件）に対して、2025年は事故ゼロ。 若狭和田ビーチ；2015～2019年の離岸流事故の平均2件（最大5件）に対して、2025年は事故ゼロ。 2015～2019年の沖向きの風による事故の平均23件（最大45件）に対して、2025年は8件。 御宿中央；システム導入前は平均68件（最大293件）の離岸流事故が発生していたが、システム運用後の2019年は5件、2020～2022年は事故ゼロ。2023年は通信障害、2024年はGPU故障、2025年にシステム修繕（事故ゼロ）。 アポガマ；システム導入前は最大6件の事故に対して、2025年（7,8月）は事故ゼロ。
	③ライフセーバー、地方自治体の安心度 80%以上 [ヒアリング調査]	システム運用の海水浴場の自治体、ライフセーバーへのヒアリング（アンケート調査、n=22）より、96%（とてもそう思う73%、そう思う23%）が「海辺のみまもりシステムは海水浴場の事故防止に有効」と回答。
	④新たに5つの市町村と連携強化	高度化の各事業を通じて新たに5つの市町村、1つの機関と関係、連携強化。 <ul style="list-style-type: none"> リスク評価を通じた新たな市町村 [1]；静岡県伊豆市 海辺のみまもりシステム導入を通じた新たな市町村 [1]；沖縄県宮古島市 IRB救助技術講習を通じた新たな消防本部 [4]；千葉県長生郡市広域市町村、埼玉県深谷市消防本部、新潟県警機動隊、東京都稲城市消防本部
2. 監視救助活動にかかる器材配備	JLA新規登録海水浴場の数値、新規3ヶ所以上（2024年度との比較）	2025年にライフセーバーが活動した海水浴場数は204ヶ所。海水浴場閉設、LS不足等の理由により、2024年に比べて9ヶ所減。新規にライフセーバーが活動した海水浴場は2ヶ所。 器材配備がスタートした2002年に対して62ヶ所増加（142ヶ所 → 204ヶ所、約1.4倍）。

2. 海水浴場リスク評価

資料B参照

安心安全な海水浴場の創出と市町村との連携強化を目的に、2025年は新規5ヶ所と更新8ヶ所で海岸利用に関するリスク評価を実施しました。



JLA認定海水浴場 計41ヶ所（2026年3月）

2025年度；新規5ヶ所，更新8ヶ所

- 福井県高浜町若狭和田 2015, 2018, 2021, 2024
- 兵庫県神戸市須磨 2018, 2021, 2024
- 東京都新島村新島黒根 2016, 2019, 2022, 2025
- 千葉県山武市本須賀 2018, 2021, 2024
- 神奈川県鎌倉市由比ヶ浜 2016, 2020
- 東京都新島村式根島泊 2019, 2022, 2025
- 千葉県御宿町御宿中央 2019, 2022, 2025
- 静岡県牧之原市静波 2019, 2022, 2025
- 静岡県牧之原市相良サビビーチ 2019, 2022, 2025
- 神奈川県湯河原町湯河原 2019, 2022, 2025
- 神奈川県藤沢市片瀬西浜 2020, 2023
- 神奈川県横浜市海の公園 2020, 2023
- 千葉県銚子市銚子マリナ 2020, 2023
- 千葉県九十九里町片貝 2020, 2023
- 千葉県九十九里町不動堂 2020, 2023
- 大分県大分市田ノ浦ビーチ 2020, 2023, 2024
- 千葉県館山市北条 2021, 2024
- 神奈川県逗子市逗子 2021, 2024
- 静岡県下田市白浜中央 2021, 2024
- 静岡県下田市白浜大浜 2021, 2024
- 静岡県下田市外浦 2021, 2024
- 静岡県下田市多々戸 2021, 2024
- 静岡県下田市入田浜 2021, 2024
- 静岡県下田市吉佐美大浜 2021, 2024
- 宮城県気仙沼市小田の浜 2022, 2025
- 神奈川県平塚市湘南ひらつかびビーチパーク 2022, 2025
- 岩手県陸前高田市高田松原 2023
- 静岡県静岡市用宗 2023
- 和歌山県白浜町白良浜 2023
- 山口県萩市菊が浜 2023
- 東京都三宅島伊ヶ谷 2023
- 静岡県東伊豆町熱川 2024
- 静岡県河津町今井浜 2024
- 北海道石狩市あそビーチ石狩 2024
- 和歌山県和歌山市磯ノ浦 2024
- 和歌山県和歌山市片男波 2024
- 東京都三宅島大久保浜 2025
- 東京都新島前浜第四 2025
- 東京都式根島中の浦 2025
- 静岡県伊豆市土肥 2025
- 静岡県伊豆市小土肥 2025



Fig. 1 JLA認定海水浴場（リスク評価実施海岸）

3. 海辺のみまもりシステム

資料C, D, E参照

AI 海辺のみまもりシステム

先端技術の導入による自治体と連携した安全安心な海辺空間の創出にむけて、2025年は沖縄県宮古島市渡口の浜にて、新たにシステムを開発しました。運用されている6ヶ所のシステムの機能向上、有用性の検証を実施しました。



福井県若狭和田海水浴場
[開発2020, 運用2021-]



沖縄県アポガマ
[開発2024, 運用2025-]



沖縄県渡口の浜
[開発2024, 運用2025-]



千葉県御宿中央
[開発2018, 運用2019-]



通信システム機能向上、PC機器の物理的故障、2026年に向けてシステム構築とAIモデル再構築。



神奈川県由比ガ浜
[開発2021, 運用2022-]



神奈川県中央・材木座
[開発2023, 運用2024-]



Fig. 2 海辺のみまもりシステム導入・運用海岸

3. 海辺のみまもりシステム

資料C, D, E参照

[1] 新規導入；沖縄県宮古島市渡口の浜

沖縄県宮古島市渡口の浜は、海岸構造物と地形的特徴から海岸西側で固定的な離岸流が発生しやすい環境にあります。過去には離岸流が原因の水難事故が発生しており、宮古島市役所や宮古島のライフガードによれば、SNSや直通便開設による影響等で国内外の利用が増え、水難事故発生への懸念が高まっています。

ライフガードの巡回と海辺のみまもりシステムにより、離岸流による事故防止を目指し、2025年は、沖縄県宮古島市渡口の浜でシステムを開発しました（2025年3月より稼働）。

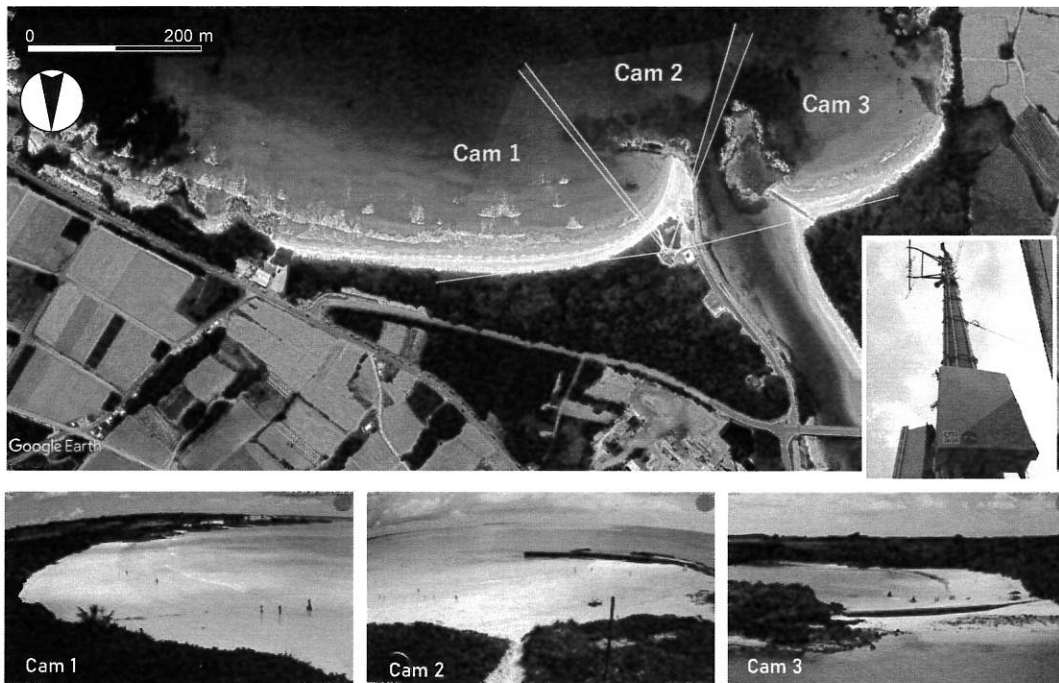


Fig. 4 Webカメラの設置位置と撮影画像

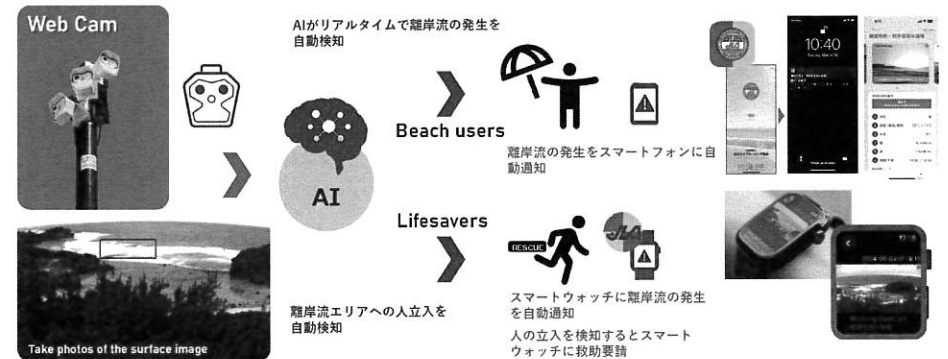


Fig. 3 海辺のみまもりシステムの概要

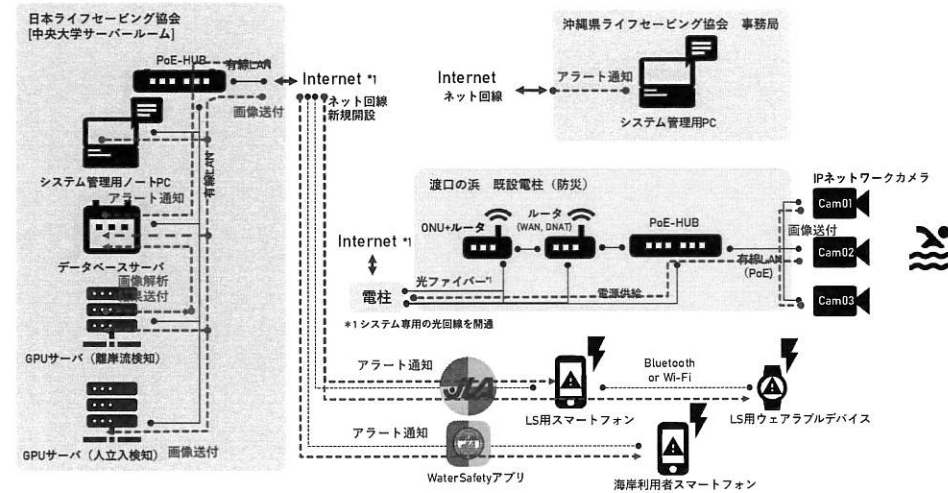


Fig. 5 海辺のみまもりシステムのシステム構成

3. 海辺のみまもりシステム

資料C, D, E参照

[1] 新規導入；沖縄県宮古島市渡口の浜

渡口の浜で発生する離岸流を高精度で検知可能なAIモデルを構築しました。AIモデルの精度検証結果（Precision 67.9%, Recall 100%, F-Measure; 0.81）より、AIは誤検知はするものの離岸流発生を見逃さないと評価できます。

Table 3 AIモデルの精度検証結果

	TP	TN	FP	FN	Accuracy	Precision	Recall	F-Measure
Cam 1	10,106	16,285	17,751	0	59.8%	36.3%	100%	0.53
Cam 2	32,010	19,784	2,125	0	96.1%	93.8%	100%	0.97
All	42,116	36,069	19,876	0	79.7%	67.9%	100%	0.81

Accuracy [精度] ; 離岸流の有無を正しく検知できた割合
 Precision [適合率] ; 離岸流と検知したものが本当に離岸流だった割合
 Recall [再現率] ; 実際の離岸流を正しく離岸流と検知できた割合



Fig. 6 AIモデルの判断根拠の可視化；AI検知結果とGrad-CAMオーバーレイの比較



Fig. 7 AIモデルによる離岸流検知の検証結果の例（アノテーションエリアとAI検知エリアの比較）

3. 海辺のみまもりシステム

資料C参照

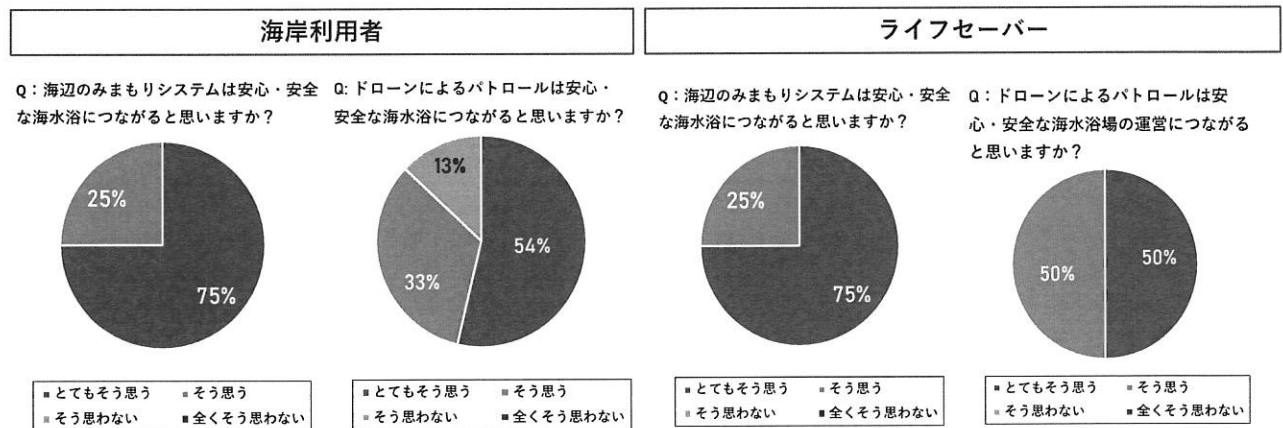
[2] システム-ドローン連携；福井県高浜町若狭和田，沖縄県宮古島市渡口の浜

離岸流エリアの要救助者に対して，ドローンの自動飛行と音声による注意喚起を行う“システム-ドローン連動機能”の運用を若狭和田ビーチで実施しました（2025年8月）。海水浴場利用者，ライフセーバーへのアンケート調査の結果，8～9割以上がポジティブに評価し，海水浴場の安全管理に役立っていると考えられました。特に，現場からは海辺のみまもりシステムとドローンにより，迅速・広域・リアルタイムに安全を確保できることが強く支持されました。

“システム-ドローン連動機能”のためのドローン試験運用を沖縄県宮古島市渡口の浜で実施しました（2025年7月）。



Fig. 8 ライフセーバーが行うドローンパトロール



意見（海岸利用者）

- ・ 溺水事故の検知や監視、アナウンスするのにドローンは有効だと思う
- ・ 人の目だと平面でしか見れないが、ドローンであれば上空からの目線で確認することができる
- ・ 見守られている安心感がある
- ・ 人の目の届かないところに行けるから良いと思う

意見（ライフセーバー）

- ・ 葉積などボードで行くと時間がかかるようなところまではっきりと見ることができ、捜索の際にとても役立った。
- ・ 高い位置から俯瞰で広い範囲での監視が可能で広範囲も迅速な移動が可能と思いました。
- ・ 浜からは声をかけづらい位置にいる浴客にもアナウンスすることができ、よりはっきりと沖の浴客の様子を見ることができる

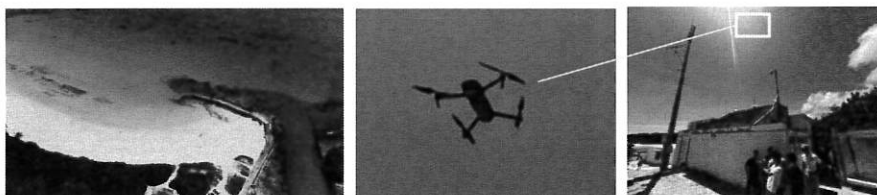


Fig. 9 渡口の浜でのドローン試験運用

Fig. 10 アンケート結果

3. 海辺のみまもりシステム

資料C参照

[3] Water Safety eyeの運用；神奈川県鎌倉市由比ガ浜，中央・材木座，沖縄県恩納村アポガマ

AIが検知した離岸流エリアをAugmented Reality(AR)技術を用いて可視化するシステム“Water Safety eye”を開発しました。スマートフォンで海を映せば離岸流発生場所を簡単に確認することが可能になり，“Water Safety eye”は海岸利用者の離岸流を含む様々な危険の認識，安全行動を支援します。



海水浴場利用者へのアンケート調査の結果，“Water Safety eye”により90%以上の利用者が危険（離岸流）を回避する行動を示し，回答結果から事故防止に有用であると考えられました。

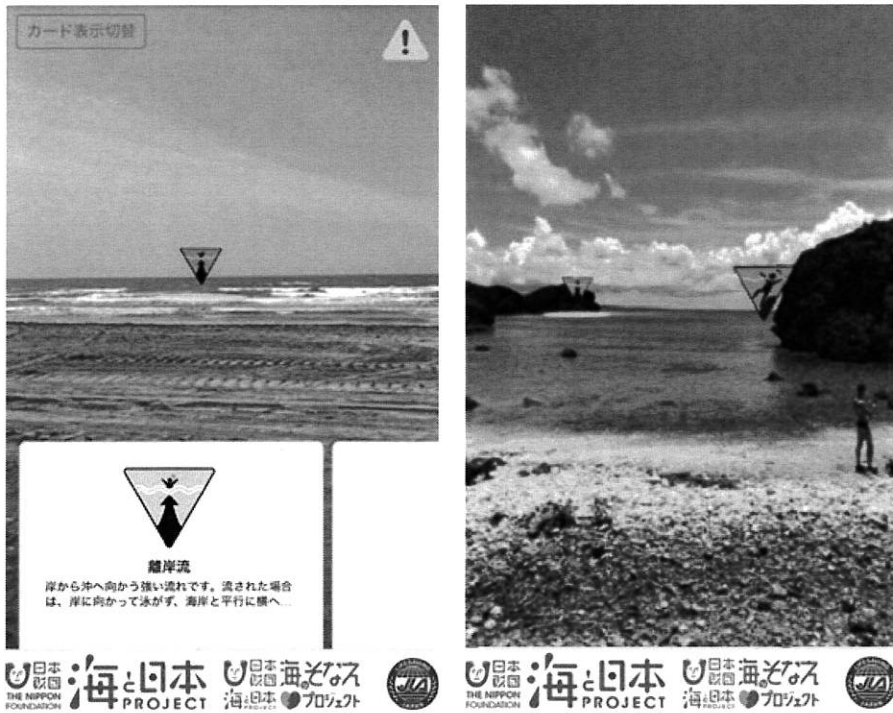


Fig. 11 Water Safety eyeの運用



Fig. 12 ライフセーバーによるハザードの設置

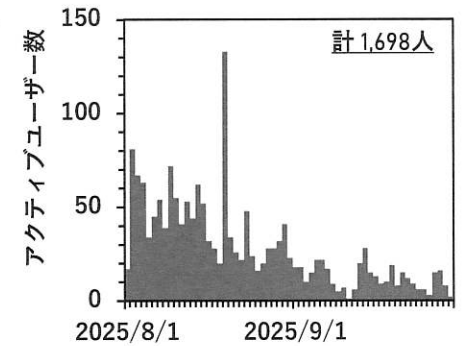
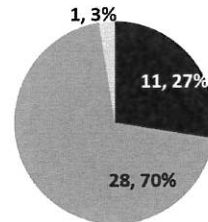
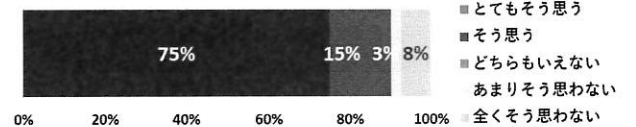


Fig. 13 8/1～9/30におけるアプリ利用者数

Q1 “Water Safety eye”で離岸流表示を見た後，どのように遊泳しますか？



Q2 “Water Safety eye”は海で安全に過ごすのに役立つと思いますか？



Q3 “Water Safety eye”は危険の認識を高めると思いますか？

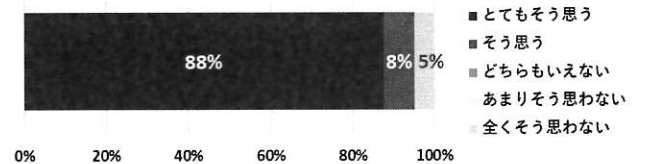


Fig. 14 海浜利用者へのアンケート結果 (n=40)

3. 海辺のみまもりシステム

資料C参照

[4] システムの有用性の検証；システム導入後の離岸流事故数の変化

ライフセーバーの監視救助活動，利用者の安全行動を支援し，システム導入後，すべての海水浴場で離岸流事故数が大きく減少，もしくは事故ゼロを実現しました。

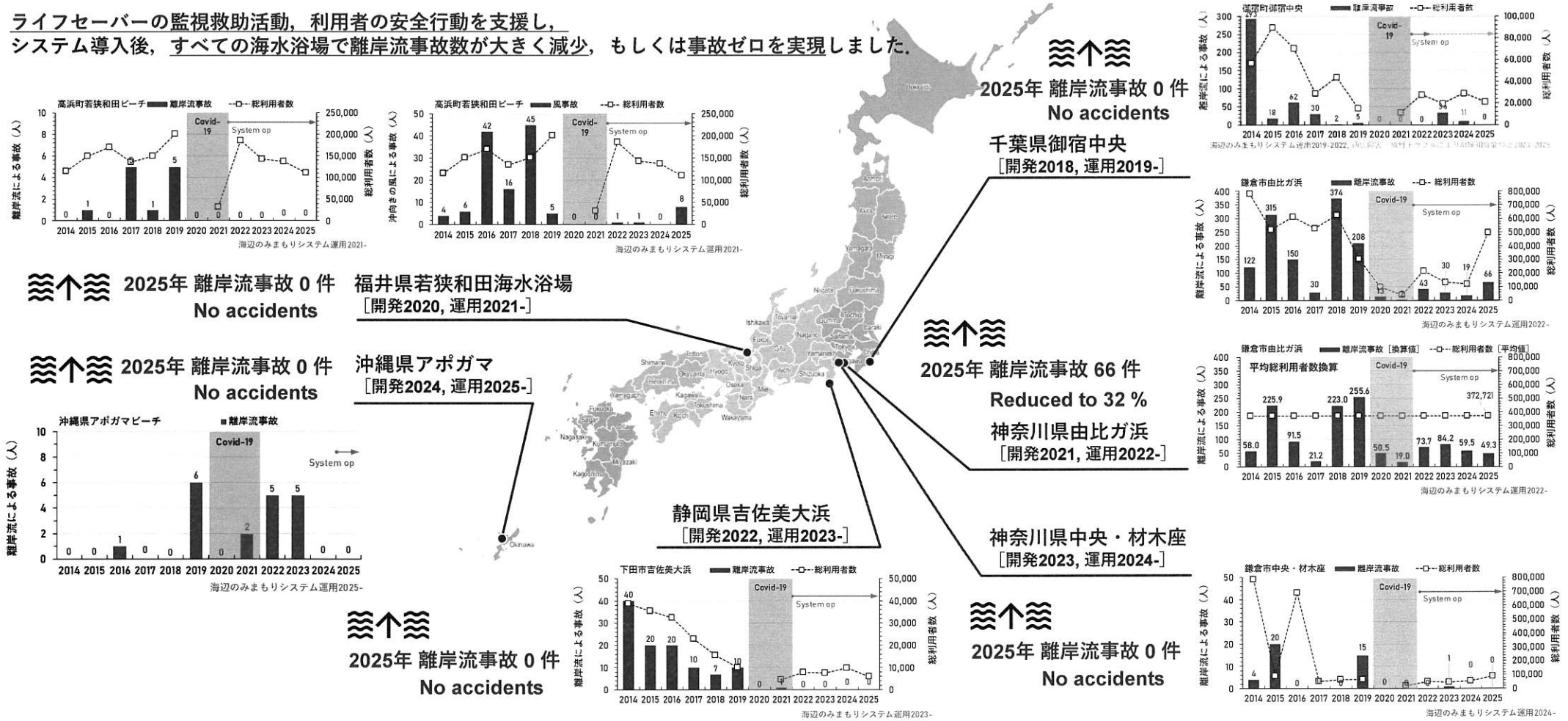


Fig. 15 システム運用後の離岸流と風に起因する事故数の変化

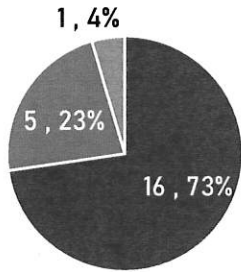
3. 海辺のみまもりシステム

資料C参照

[4] システムの有用性の検証；ヒアリング（アンケート調査）結果

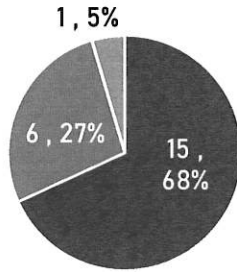
アンケート調査の結果、システムは海水浴場利用者の事故防止に有効であり、離岸流の検知、離岸流エリアへの人立ち入りは概ね正しく、離岸流発生、冲向きの風発生のアラート、津波防災機能は海水浴場の安全管理に役立っていると評価できました。

Q1：海辺のみまもりシステムは海水浴場利用者の事故防止に有効か？



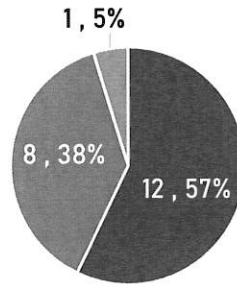
■とてもそう思う ■そう思う
■そう思わない ■全くそう思わない

Q2：「WaterSafetyアプリ」は海水浴場利用者の事故防止に有効か？



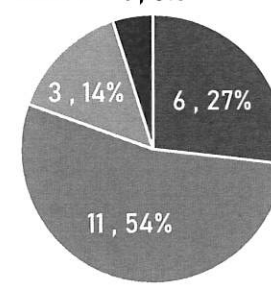
■とてもそう思う ■そう思う
■そう思わない ■全くそう思わない

Q3：ライフセーバ用スマートウォッチは海水浴場利用者の事故防止に有効か？



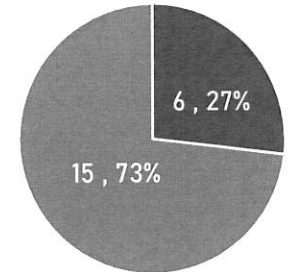
■とてもそう思う ■そう思う
■そう思わない ■全くそう思わない

Q4：システムによる離岸流の検知は正しかったか？



■とてもそう思う ■そう思う
■そう思わない ■全くそう思わない

Q5：システムによる離岸流エリア内への人立ち入り検知は正しかったか？



■とてもそう思う ■そう思う
■そう思わない ■全くそう思わない

意見

- とても素晴らしいシステムだと思います。海水浴場でのライフセーバーの補助だけでなく、自然海岸を含めたすべての海岸線に設置できるようになると、日本の水難事故による死者・行方不明者は必ず減少していくと思います。
- 避難状況を遠隔地でも可視化できるのは良いと思っています。
- 遊泳客にも注目されているシステムです。
- システム導入後も、ライフセーバーや観光課との意見交換の場を通じて、システムをアップデートいただき大変感謝しています。今後も引き続き安心・安全な海水浴場の運営に向け、更に連携を強化していきたいと考えています。

Fig. 16 2025年にシステムを運用した4海岸（若狭和田，由比ガ浜，中央・材木座，アボガマ）の自治体，ライフセーバーを対象にしたアンケート調査結果（n=22）

3. 海辺のみまもりシステム

資料C参照

[4] システムの有用性の検証；①神奈川県鎌倉市由比ガ浜


1,244 **501**
 アラート通知 LS救助要請
 Rip Current → 声かけ, 注意放送, 安全移送

2025年度 PA ; 96件, EC ; 0件

離岸流が要因の救助 ; 66件 < 2015-19 ; 30~315件 (平均215件)

→ 離岸流事故を32%に低減.



システムによる離岸流と人検知の例

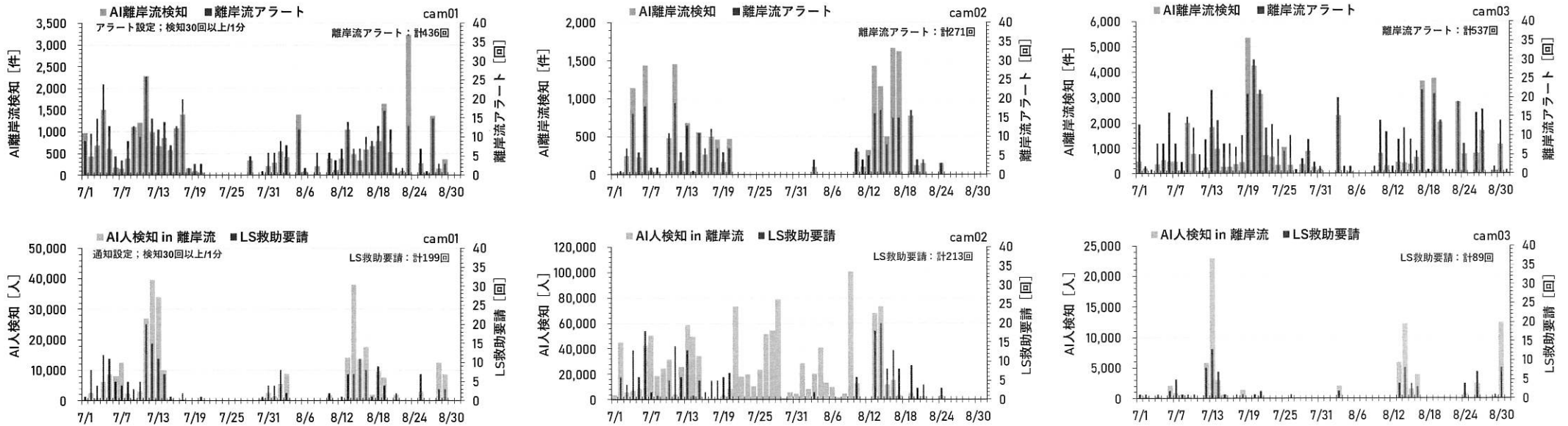


Fig. 17 システムによる離岸流と人検知, アラート発報と救助要請の結果

3. 海辺のみまもりシステム

資料C参照

[4] システムの有用性の検証；②神奈川県鎌倉市中央・材木座


473 **542**
 アラート通知 LS救助要請
 Rip Current → 声かけ, 注意放送, 安全移送

2025年度 PA；2件, EC；0件

離岸流が要因の救助；0件 < 2015-19；0~20件（平均7件）

→ 離岸流事故を0件に低減.



システムによる離岸流と人検知の例

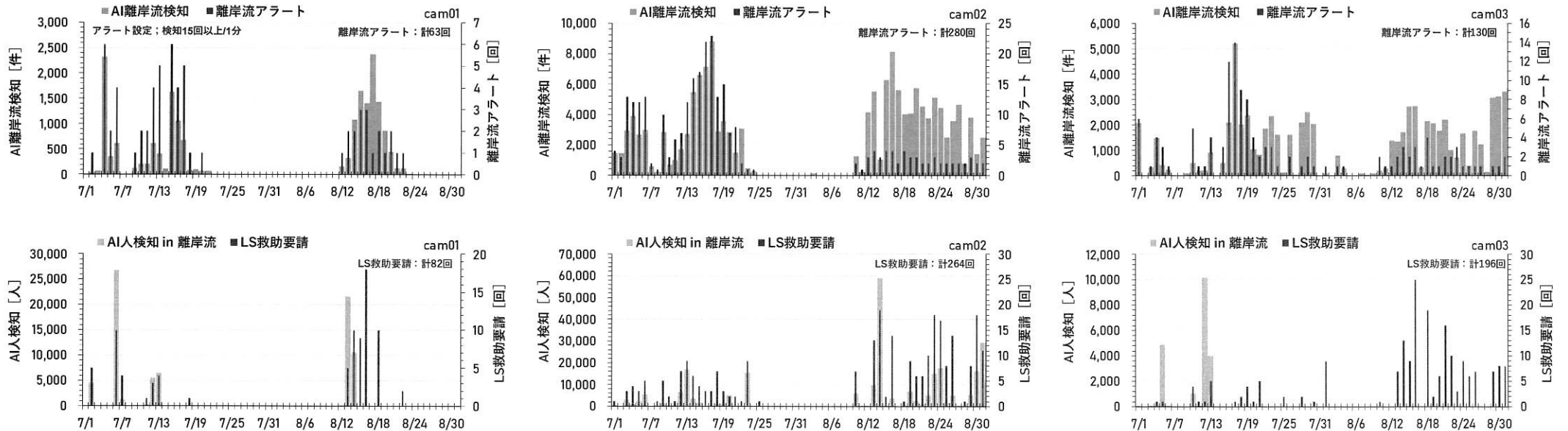


Fig. 18 システムによる離岸流と人検知, アラート発報と救助要請の結果

3. 海辺のみまもりシステム

資料C参照

[4] システムの有用性の検証；③静岡県下田市吉佐美大浜


142 78
 アラート通知 LS救助要請
 Rip Current → 声かけ, 注意放送, 安全移送

2025年度 PA ; 0件, EC ; 0件

離岸流が要因の救助 ; 0件 < 2015-19 ; 7~20件 (平均13件)

→ 離岸流事故を0件に低減.



システムによる離岸流と人検知の例

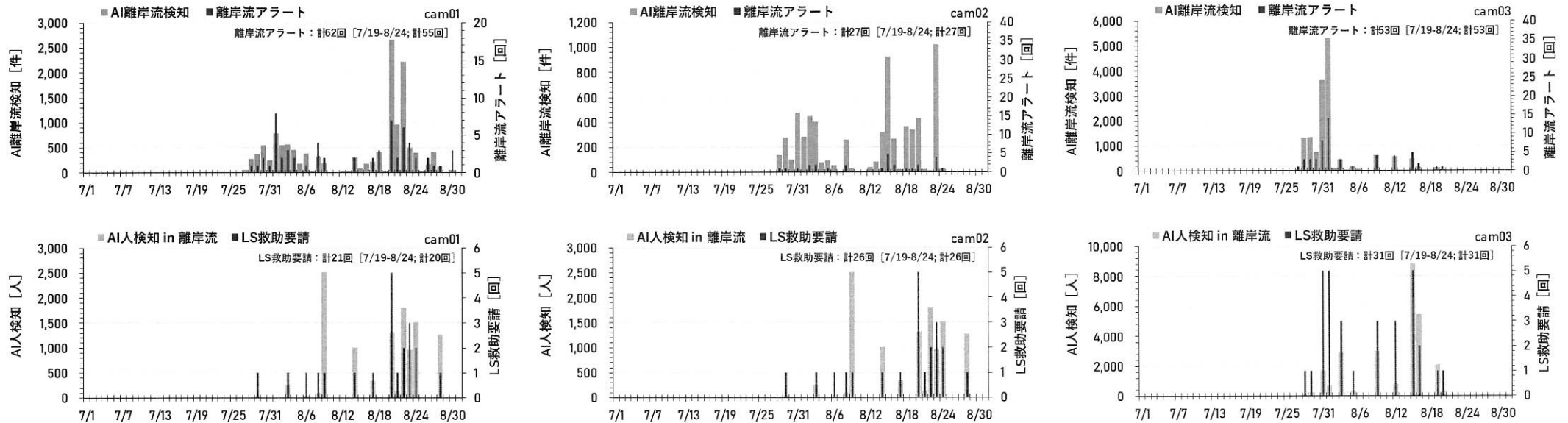
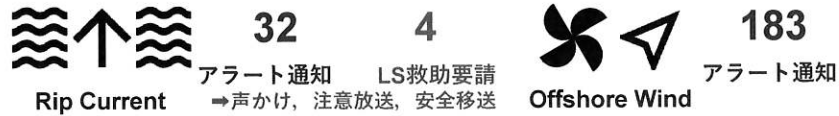


Fig. 19 システムによる離岸流と人検知, アラート発報と救助要請の結果

3. 海辺のみまもりシステム

資料C参照

[4] システムの有用性の検証；④福井県高浜町若狭和田

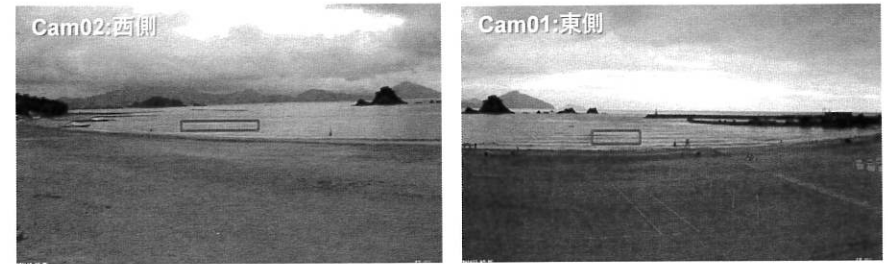


2025年度 PA ; 10件, EC ; 0件

離岸流が要因の救助 ; 0件 < 2015-19 ; 0~5件 (平均2件)

風が要因の救助 ; 8件 < 2015-19 ; 5~45件 (平均23件)

→離岸流事故を0件, 風事故を8件に低減.



システムによる離岸流と人検知の例

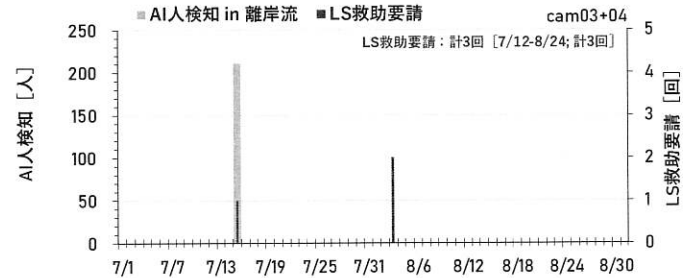
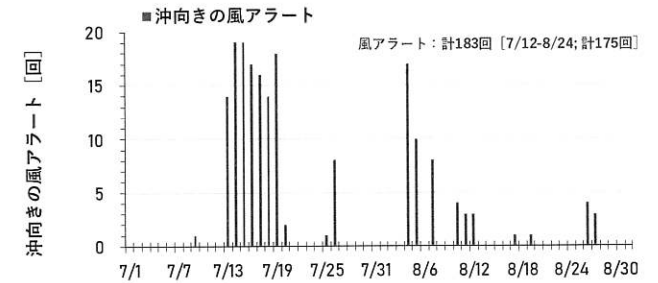
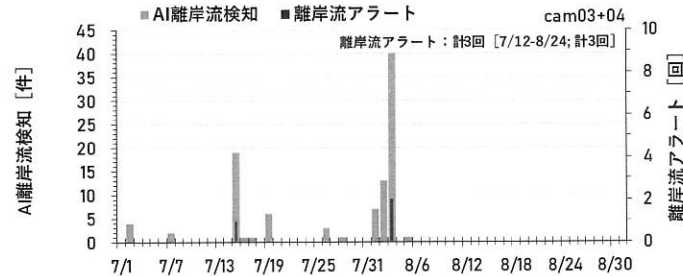
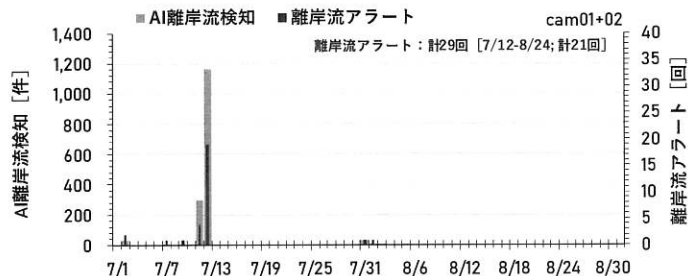
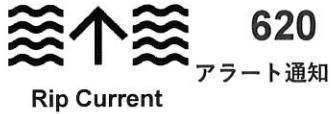


Fig. 20 システムによる離岸流と人検知, アラート発報と救助要請の結果

3. 海辺のみまもりシステム

資料C参照

[4] システムの有用性の検証；⑤沖縄県恩納村アポガマ



2025年度 PA ; 0件, EC ; 0件

離岸流が要因の救助 ; 0件

→ 離岸流事故を0件に低減.



システムによる離岸流と人検知の例

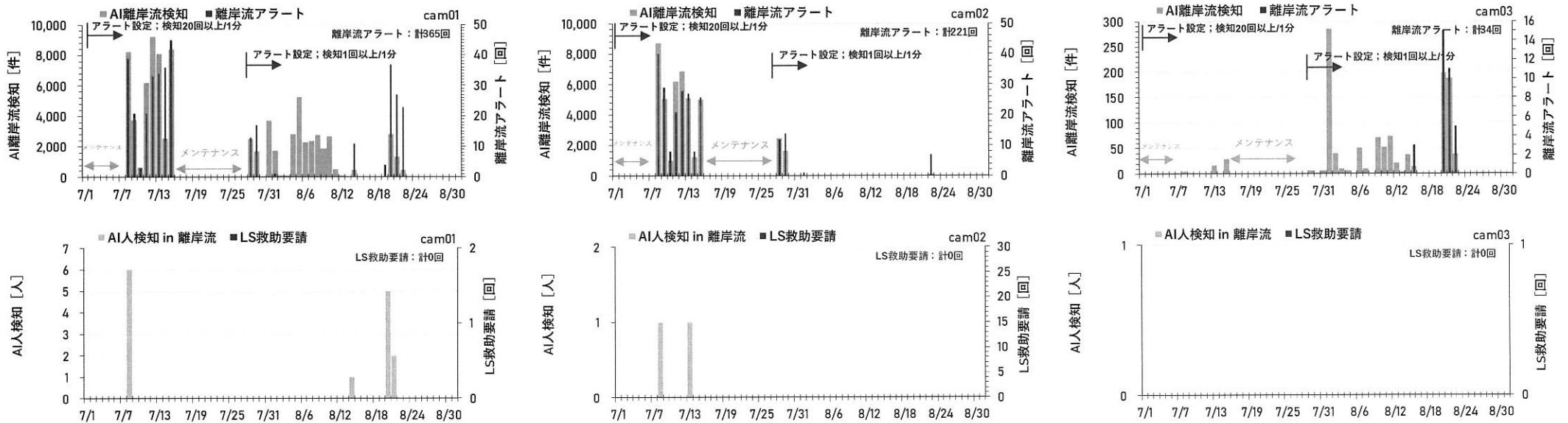


Fig. 21 システムによる離岸流と人検知，アラート発報と救助要請の結果

4. ドローンパトロール

資料参照

安心安全な海水浴場（海岸）の創出と公的救助機関・市町村との連携強化を目的に、2025年は7ヶ所（湘南広域含む）でドローンパトロールを実施しました。

ドローン4機配備；気仙沼ライフセービングクラブ，葉山ライフセービングクラブ，鎌倉ライフガード，沖縄県ライフセービング協会



ライフセーバーが活動する海岸，海水浴場でのドローンパトロール実績；
宮城県小田の浜，神奈川県葉山，神奈川県由比ガ浜・中央材木座，
神奈川県湘南広域，東京都三宅島，沖縄県本島
千葉県御宿，静岡県下田白浜大浜

海辺のみまもりシステム-ドローン連携；
福井県若狭和田，沖縄県本島，宮古島渡口の浜 [試験飛行]

ドローンパトロールに関する報道；
日テレニュース（2回），TVKニュース（1回），報道ステーション（1回）

沖縄県本島自然海岸*



Fig. 22 ドローンパトロール実施海岸

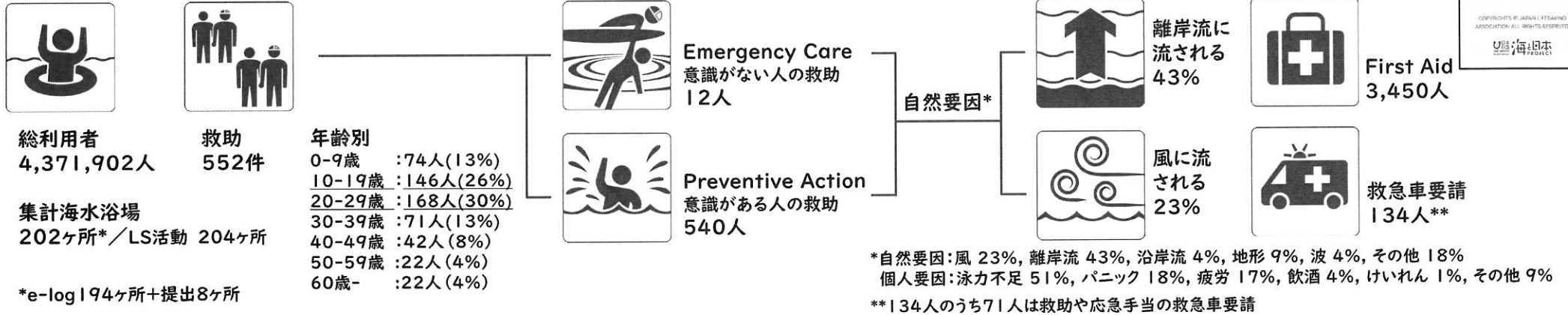
6. e-log

資料C, F参照

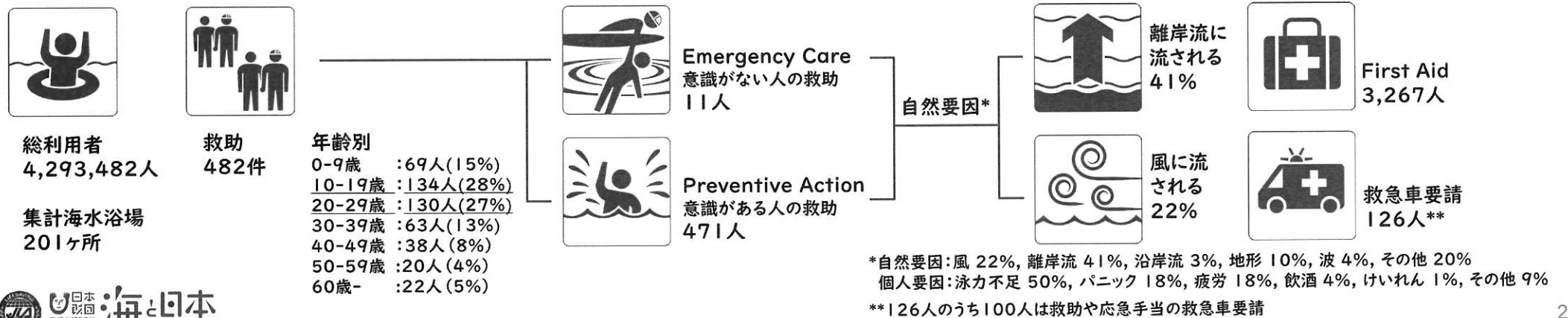
電子パトロールログを全国のLSが活動する95%の海水浴場で運用しました。これにより、①日々の活動記録のデータを集計、分析し、②水難事故防止として夏季シーズン中の速報値を定期的に発信（注意喚起）、③夏季終了後の9月10日に速報値を発信することができました。



2025年 [2026年3月30日の確定値]



2025年 [2025年9月10日時点の速報値]



7. 監視救助活動にかかる救助器材配備

2025年は、9月30日までにレスキューボード42本（計画40本）、ボードラック30本（30本）、レスキューチューブ140本（150本）、AED10機（10機）、フラッグ6セット（15セット）を、札幌国際大学水泳部 ライフセービングチームなど新しいライフセービングクラブを含む全国48クラブに配備。

- ①1年後の到達目標 ライフセーバーが活動する海水浴場の増加（3ヶ所以上）；213ヶ所 [2024年] → 204ヶ所 [2025年]（理由；海水浴場閉設，LS不足等）
- ②事業成果の測定 JLA新規登録海水浴場の数値（2024年度との比較）；新規2ヶ所（兵庫県炬口漁港海岸，徳島県月見ヶ丘海水浴場）

LS活動浜数 [2002→2025]；142ヶ所 → 204ヶ所（約1.4倍に増加）
 LSクラブ数 [2002→2025]；78クラブ → 173クラブ（約2.2倍に増加）

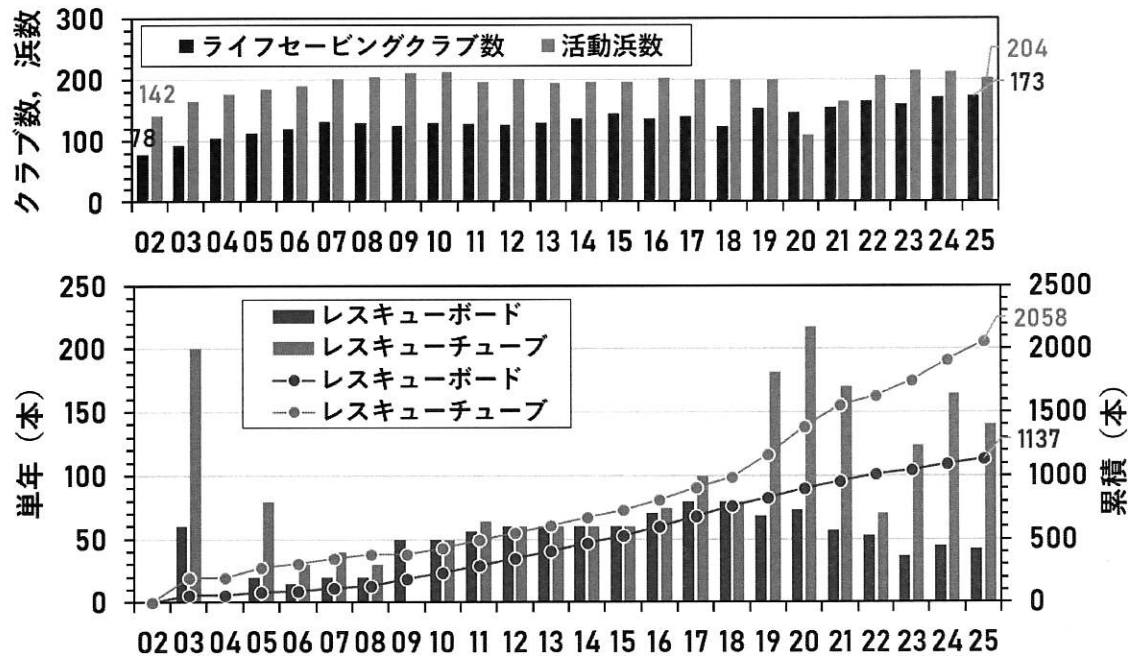


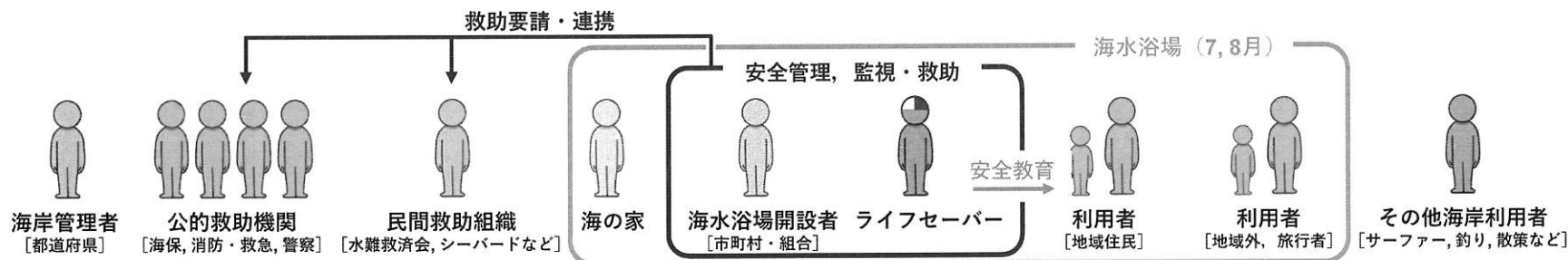
Fig. 24 これまでの救助器材配備の実績（2025年3月時点）



8. 2026年度以降の高度化事業計画

Stage 5 高度化環境構築；海辺に関わるすべての人が支え合あう事故ゼロの海辺空間の創出

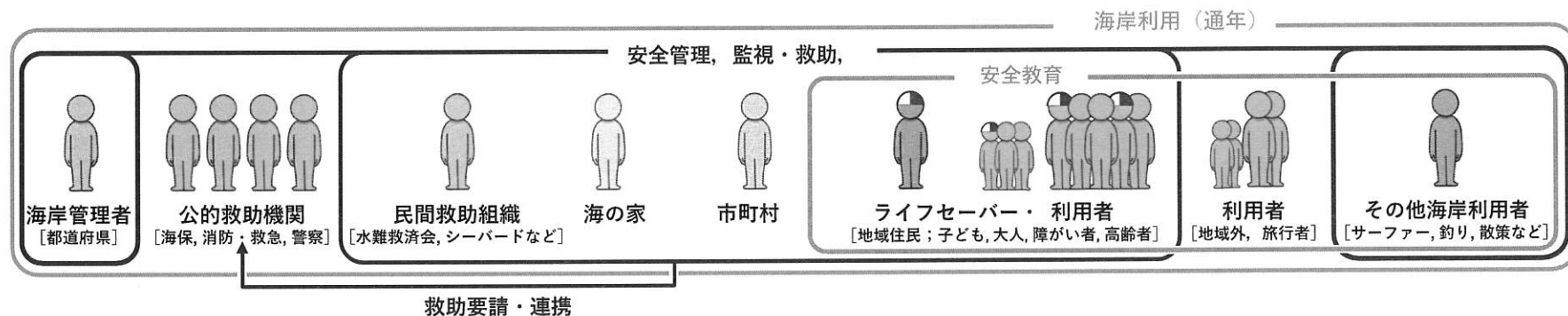
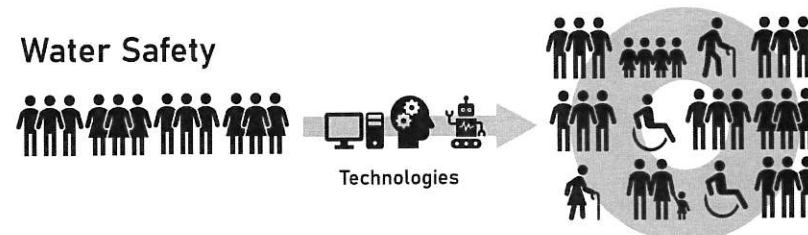
【夏季海岸利用の現状】



【海岸利用の目指す将来（案）】

海水浴場に限らないすべての海辺において、ライフセーバーと利用者、地域住民、自治体、公的救助機関の連携と、テクノロジーを活用した海辺に関わるすべての人が支え合う事故ゼロの海辺空間の創出。

Water Safety



8. 2026年度以降の高度化事業計画

Stage 5 高度化環境構築；海辺に関わるすべての人が支え合あう事故ゼロの海辺空間の創出

AI 海辺のみまもりシステム

システムを活用した公的救助機関連携



海辺のみまもりシステム活用による水難救助訓練（2025年5月25日実施）

目的；システムとライフガード、消防、海上保安庁、警察などの関係機関との迅速かつ効率的な連携体制を確認、事故発生時における初動対応の迅速化を目指す。

実施機関；沖縄県ライフセービング協会

参加機関；沖縄県、金武地区消防、第11管区海上保安部、沖縄県警、沖縄マリノズ「ヤセイトピ」ユーロ、琉球水難救済会

【開発2024、運用2025】
沖縄県恩納村アボガマ



琉球新報，2025年6月8日

8. 2026年度以降の高度化事業計画

Stage 5 高度化環境構築；海辺に関わるすべての人が支え合あう事故ゼロの海辺空間の創出

AI 海辺のみまもりシステム 2035年までに全国主要20海水浴場，自然海岸でシステム運用，Stage 5実現

開発	2018	2019	2021	2024	2020-	2026-	-2030	-2030	2022	2022	2019	2024	2023	-2030
運用	2019-	2020-	2022-	2024-					2022-	2019-	2022-	2020-	2025-	2024-

Stage	1			2			3					4		5	
	リスク	離岸流	アプリ	風	津波	Riエア	AR	助サイン	溺者	UV	雷	連携	ドローン	ロボット	環境
千葉県御宿中央	■	■	■			■		□							
神奈川県由比ガ浜	■	■	■		■	■	■	□							
神奈川県中央・材木座	■	■	■		■	■	■								
静岡県吉佐美大浜	■	■	■		■	■									
福井県若狭和田	■	■	■	■		■	■					■	■		
沖縄県恩納村アボガマ	□	■	■		■	■	■	□				■	□		
沖縄県宮古島渡口の浜	□	■	■		■	■	■	□				■	□		

【システムの機能向上にむけた取組み】

①システム（AIモデル）の精度向上，②助けてサイン検知，③溺れの検知，④UVアラート，⑤雷アラート，⑥システムと連携したロボットレスキューの開発・導入，⑦コスト縮減・展開（AIモデルの汎用化，システムのクラウド化），

[開発2020, 運用2021-] 福井県若狭和田 [1919-] 千葉県御宿中央

[開発2021, 運用2022-] 神奈川県由比ガ浜

[開発2023, 運用2024-] 神奈川県中央材木座

[開発2022, 運用2023-] 静岡県吉佐美大浜

[開発2024, 運用2025-] 沖縄県恩納村アボガマ

[開発2025, 運用2026-] 沖縄県宮古島渡口の浜